

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：松葉町自治会

開催場所：あけぼの会館

開催日時：平成 28 年 8 月 12 日（金）19 時 00 分～20 時 45 分

参加者：自治会側【地域住民の方 13 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、鈴木市長戦略部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、駒形戦略推進課係長、山内協働推進課係長】

内 容

① 廣瀬自治会長あいさつ

・今までは、市長と意見を交わす場という機会がなかったが、市長も市議会議員も市民から選ばれて、市民の命、市民の暮らしを守る政策、提言などをしてくださっていると思う。市民の皆さんが忌憚のない意見を届けていただいて、市民と行政が協働して、市を明るく元気な街にしていくことが大切ではないかと思っている。

・松葉町は小さな町内ではあるが、全国的にも少子高齢化が進んでいる中、この町内は高齢化が高いほうではないかと感じている。今年の敬老会の対象者（75 歳以上）が 46 名いる。町内の世帯が 96 軒なので、半数近い世帯に 75 歳以上の高齢者がいることになる。平成一桁の頃は、まだまだ元気な高齢者の方が多かったという感じがしたが、だいぶ町内の状況も変わってきていると思う。

・はじめての市長と語る機会である。批判は誰でもできる。建設的な意見を伝えていくことは大変ではあるが、大切なことであるので、忌憚のない御意見をお願いしたい。

・市長からも市政報告をいただけるということもあるので、本日はよろしくをお願いしたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

・この車座トークは、68 の全部の自治会をまわるということで、最初の 2 年間は「語る会」ということで呼んでいただいたところに伺っていたが、呼んでいただけない自治会もあり、全部限なくまわるという事は難しかった。今の島田の抱える課題、私の考え方を皆様に知っていただき、地域の皆様の行政に対する意見や、この地域の事情、特性を教えてください、目で耳で肌で確認して、それを市政に反映したいということでまわっている。

・また、今年、来年の 2 年をかけて次の総合計画の策定の作業を行っているが、その参考にもさせていただく。

・市内の様々な地域でお話を聞く中で、高齢化が進み、少額の年金で暮らしている高齢者の方が多い。生活保護の方も増えてきていて、措置費は年間 5 億 5 千万円程度となっている。ひとり暮らし世帯の方も増えていて、人口はわずかに減ってきているが、世帯数は増えている傾向にある。ひとり暮らしで、不安に思っている方が増えているということも言える。

・政治の役割の中で一番大切であるのは、弱い立場にいる人たちが安心して暮らせる（地域で住み続けることができる）ようにすることであり、行政運営の根本の根っこの部分であると言える。

・一方、人口減少に伴う税収の減少によって、今まで行政にできたことができなくなっている。このため、仕事を増やし雇用を増やして、ここに住んでくれる人たちを増やす政策もしなければいけない。弱い立場の人も含めて全ての皆さんが安心して暮らせる街をつくっていくことが政治の根っこではあるが、様々な手を打って、選ばれる街にしていかなければならない。

■行政（政治）の役割が変わってきていることについて

・松葉町の7月31日現在の世帯数は108世帯、人口は214人で、高齢者人口は82人、高齢化率は38.3%となっている。市の平均が29.4%なので、高齢者の方が多地域となっている。15歳以下の人口は11人で人口に占める割合は5.1%となっている。市の平均は13.8%なので子どもの比率は低い。昔からこの地域にお住まいになっている方が多い地域といえる。

・人口が減っていく時代にあって、地域をどのように活性化していくのか。活性化とは持続可能なということだと思うが、ここに住んでいる皆様が住み続けられること、そうするためにはどうしたらいいかということこれから考えていかなければならない。

・以前は、行政に「あれやってほしい、これやってほしい」とお願いをしていただければ、行政もやることができた時代もあった。

しかしながら、昭和40年～50年代に道路や公共施設を整備してきたものが、今、いっぺんに老朽化を迎えている。この公共施設を、若い人が昔のようにたくさんいて税収が入ってくれば、建替えや造り直すことはできるが、高齢化に伴う医療、介護、福祉といった経費も増えている中においては、建替えや造り直すことは難しくなっている。そのために、こういった公共施設は長寿命化とあって、少しでも長持ちさせる方法で効率的に整備をしていく必要がある。そうはいつても、市内の小中学校の古い校舎は建替えていかなければならなくなっている。こうした中、長寿命化、建替え、学区などを考えていかなければならない。特に複式の学級は望ましい姿ではないと考えている。

・国の借金も、1,053兆円となっていて、国民一人あたり830万円、4人家族で3,300万円以上の借金を背負っていることになる。これでやっていけるのかという感想をもたれるのではないか。

・このため、国も公共事業などの建設費に回すお金は減ってきている。こういう状況の中にあって、これからの行政のやり方を考えていかなければならない。新しいものを造るのが6割で長寿命化が4割という比率は、2、3年のうちに逆転していくものと思っている。

・国からも補助金が交付されないと、道路整備や学校建設の事業も先延ばしになることも考えられる。このため、我々は、借金するばかりではなく、今あるお金を上手に使いながら、次の世代、またその次の世代が島田に住み続けられるよう、その世代の人たちが使いたいものに投資できるような財政運営が必要である。10年先の島田市のために何をすべきか考えていくことが市長の役割であると考えている。

・この中で、まず市民病院を市民の皆様が安心して使っただけの病院に建替えることをまずやらせていただいて、市役所や学校などの公共施設の建替えなど課題はたくさんあるが、優先順位をつけて実施していく。

・今は行政だけをあてにしている、まちづくりはできない時代になっている。先ほども自治会長さんが協働のまちづくりと、建設的な意見をとおっしゃってくださったが、地域と行政が一緒になって地域づくりをしていかなければならない。行政も一人暮らしの高齢者には電話を掛けたり、給食を届けたり、様々な取り組みを行っているが、それでも日常生活でちょっとした困りごとは、ご近所さん同士で助け合える互助の仕組みをつくっていかなければならないと思っている。

・地域包括ケアシステムはその一つで、日常の中での声掛けなどができる街、これは島田だからこそのことだと思っている。

・ハローワークの署長、労金の支店長は転勤族だが、島田は暮らしやすいまちという感想をいただいている。10万人都市の良さを発揮できる街にしていかなければならない。そのために皆様のお力を貸していただきたい。地域と行政がお互いに手を携えながら街をつくっていきたい。これが、私が考えるこれからのまちづくりの基本。地域とともにまちをつくっていけるところが伸びていく（まちだ）と思う。

■市民病院の建替えについて

・造る場所は、今の東側の駐車場の場所で、道を付け替えたりする。あの土地だと三角形の建物になってしまうのではないかとされるかもしれないが、今のところはT字型のような形になる予定としているが、使いやすい形にしていきたい。

・基本計画までに決まったことは、病床数を445床程度とすること。

・床面積は35,000㎡、7～8階建て、屋上にはヘリポートを設置して、ドクターヘリの患者に対する医療行為を効率的に行えるようにしていきたい。

・今ある救急棟と検診センターは残す。救急棟は透析センターとして整備し、災害時の対応にも効果を発揮できるようにしたい。診療科目は今と変わらない。

・事業費は247億円を見込んでいる。現在、基本設計をやっている、今年中には、もう少し詳細な内容を皆さんにご報告できると思う。

・地盤について心配をいただいているが、ボーリング調査もしているし、岩盤までの距離はあるものの、その間の土質は粘土質である。液状化は砂と水が混ざって起こる。県の第四次被害想定でも液状化しにくい場所になっている。今の最新技術で岩盤まで杭を打てば建設には何も問題がないと思う。

・周辺道路については、県道は緊急輸送路となっているので、多少の亀裂は入ったとしても、緊急車両が通行できるよう優先して復旧させ、市民の皆様安心して使っていただける、心の拠り所となる病院をつくっていきたい。

・大津通りは電線の地中化の事業を実施しており、街中のメイン道路になる。朝晩、通院者等の渋滞が発生しているが、この松葉町の区域内的の道路を抜け道として利用されているため、その影響が少なからずあると感じている。対策としては、県道に右折レーンを設置して渋滞を緩和させていきたい。

・国は毎年医療費が1兆円以上増えていることから、医療費抑制のため、2025年を目途に医療制度改革を行う方針で、施設（病院を含む）から在宅へという流れを考えている。市民病院のような救急病院は、平均で14日の入院日数であるが、9日以上入院日数になると医療報酬点数が減じられる仕組みとしている。

- ・島田はこれに対応するため、この4月から24時間訪問看護ステーションをはじめている。もし、夜中に具合が悪くなっても、かかりつけの医師の指示書があれば、ナースが指示書に従って医療行為ができ、安心して在宅で医療が受けられるというもの。
- ・現在の病院の駐車場では、来院目的でない方が無断で駐車していることもあり、無料とするのか、通院以外の方を有料とするか、また、駐車台数を確保するため立体駐車場にすることなどの検討も必要だと思うが、立体駐車場は御高齢の皆様には駐車しにくいと思うので、現実的ではないと思う。
- ・また、東側駐車場に新しい建物を建設してから今の建物を取り壊していくので、市民の皆様の診療に影響が出ないように建替えを行っていく。
- ・医師の確保については、市民病院は昔から京大系といわれてきた。
- ・しかし、京都大学からは面倒を見れないと言われている。昔の医局制度があって、教授が、この病院に行けといていた時代には、島田にも来ていたが、今は、研修医が自分の研修する場所を選択するため、京都の学生さんたちは、関西圏から出たくない、行っても三重までだと言っている。このため、現在は、全国からお医者さんに来てもらっている。これから島田に医師を派遣してもらおう有力なところとして、浜松医科大学をしっかりとおさえていきたいと思っている。浜松医科大学は医師の定員増を含めて、県内の学生を多く採っているので、今年あたりから医師が増えていく。私も定期的に浜松医科大学の学長を訪問して、島田に医師を派遣して頂きたいとお願いをしている。コンスタントに100人前後の医師が市民病院に勤務できるよう大学等に働きかけを継続していきたい。
- ・先ほど申し上げた事業費のうち、医療機器に50億円程度かかる。医療機器の充実を図ることも医師の確保には重要な要件と考えている。
- ・現在、志太3市にそれぞれ市民病院があるが、どれも500床以上の規模となっている。それぞれの病院が得意な診療科目があって、島田の市民病院は循環器系が得意な診療科目。焼津はその科目が手薄で、患者さんは島田の市民病院に来る。一方、産科は島田の市民病院は手薄なので、医師の派遣を焼津にお願いするなど、広域で連携（機能を補い合うこと。）しながら対応をしている。

■消防の広域化について

- ・4月から静岡市、島田市、牧之原市、吉田町、川根本町の3市2町が静岡市消防局として再編された。
- ・静岡の指令所では119番通報があると大型のスクリーンの中に、島田市の地図が大写しに出る。こうした情報を基に、島田の消防署に出動の指令が出される。
- ・広域化のメリットは、初倉で火災があったとき、その消火のため、島田消防署と初倉出張所から出動した際、その30分後に初倉で別の火災が発生し、吉田の本署からの応援と、島田消防署に詰めていた金谷出張所が消火も出動した。途中で引き返したが、牧之原本署の化学隊も出動した。さらには静岡市葵指揮隊、救助隊なども30分で島田に到着した。このように、広域で消防活動や救急活動に連携して取り組めるようになった。さらに、航空隊や水難救助隊などの特殊部隊も出動の要請なしで出動することから、迅速な対応が可能となっている。
- ・現在、藤枝市、焼津市は志太の広域消防を組織しているが、次期の通信機器などの更新時には、3市2町の我々の広域消防に加わってほしいと思っている。消防の組織は、中部で一つ、ゆくゆくは警察同様、県で一つという体制になることが望ましいと考えている。

■空き家対策について

- ・現在、全国平均で空き家は2割程度。2025年を過ぎる頃には3軒に1軒が空き家になるといわれている。
- ・団塊の世代の方の自宅（家）の保有率は全国平均で約8割。団塊ジュニアといわれる世代の保有率は約6割となっている。
- ・このため、自宅を（家）を保有している団塊ジュニアの方々が、団塊の世代の方々の家に住むということが可能性として極めて低く、結果、空き家になるのではないかと懸念されている。現在は、耕作放棄地が課題だといわれているが、あと10年も経てば、放棄宅地、放棄住宅が日本中の課題となってくる。これは、空き家になることで、衛生上、治安上の課題があるからである。国では、法律を整備し、朽ち果てそうで、人的に被害が及びそうな恐れのある建物、衛生上問題のある建物、1年以上人が住んでいない建物という条件を設定して、そのような建物を特定空き家とすることを法律で定めた。

この特定空き家に認定されると、行政はまず所有者に取り壊すよう指導し、さらには行政がその建物を取り壊す権限ももっている。当然、行政が取り壊した場合の費用は、所有者に請求することになる。そして、固定資産税も、特定空き家として認定された場合は、仮に住宅が残っていても、その住宅（特定空き家）の建っている土地は更地と同様の税金がかかることになる。通常の宅地の概ね6倍になる。

- ・これからは、空き家をどのように活用していくのかという時代になっていくと考えている。財産であるという今までの考え方とは違った見方をした活用のあり方を考えていかななくてはならない。
- ・山林などはすでにそういう状況にあって、行政に寄附をしたいという申出もあるが、資産としての価値がないと判断されているから寄附をしたいという申出もあると思う。その土地が公共的に活用できる土地であれば寄附の申出に応えることは出来る可能性はあるが、そういうものは極めて少ないと考えている。
- ・土地の所有の意識や考え方は、今後大きく変わっていくものと思う。
- ・地域の課題解決のために、皆さんで取り組みたいことがあれば、是非行政に相談してほしい。
- ・例えば、ある地域では、放課後児童クラブも造れず、働く親が増えて放課後児童クラブが欲しいという中で、地域の公共施設を使って、地元の人たちが自分たちで放課後に子供たちを見ている。毎日ではなくて週3回くらい見ている。そんな活動もしている。
- ・子どもを放課後児童クラブへ送っていくことを地域で取り組んでもらっているところもある。
- ・週に数回、高齢者にお弁当を配って安否確認をしていくことを検討している地域もある。
- ・そういった取り組みに対して、行政も補助金や何らかの支援はできると思っている。
- ・まちづくり支援交付金も、これまでは単年度で10万円、もしくは30万円だったものを、6年間継続した事業に交付するという形に変えてきている。6年間で180万円までみることが出来る。プレゼンテーションは必要（9月末）となるが、5月末のプレゼンテーションは16団体の応募に対して、全ての団体に交付金が交付される予定となっている。
- ・いろいろな地域を回っていて、人口減少を迎えた今、地域のあり方や行政のあり方は、もう（今までとは）違う。完全に新しい時代として、地域と行政が一緒になってまちをつくっていかないと、地域の皆さんが満足できる地域にはなっていないというお話をさせていただいている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■医療費の削減について</p> <p>名医は、時間の余裕ができることと、儲かることなどの理由から、開業する傾向にある。島田市民病院には、3人の名医がいたが、みんな開業している。</p> <p>私は、開業医（個人医院）へ通院しているが、通院している人の6割くらいは、投薬だけを受けに来ている。3ヶ月に1回は医師の診察を受けなければならないが、あとは投薬を受けながら自己管理をしている。個人医院で投薬の処方箋を出してもらおうと、1,300円～1,500円かかる。労働者の最低時間給が約800円であり、数円上がったといったようなことを総理大臣が言っていたが、処方箋を書くだけで1,300円～1,500円であり、開業医は儲かる。</p> <p>65歳以上の方が島田市の人口の約30%、約3万人おり、そのうちの約5千人くらいは通院しているとして、そのうちの約6割が投薬を受けているとすると、それだけで年間1億円以上の金額が（投薬の処方箋だけで）かかってしまう。</p> <p>かかりつけの薬局は、医師から出た処方箋の内容を記録しているが、3ヶ月医師の診療を受けずに薬がもらえるのなら、何か良い方法で、（投薬の処方箋による）1億円を節約する方法がないのか。</p>	<p>●国がどんどん医療点数を下げているので、開業医が経営に四苦八苦している。30歳代で開業するなら5億円の借金をなんとか返せるが、40歳代で開業する場合は、どこかの閉院した医院を居抜きでいただいて開業するくらいでないと、借金を返せないというような時代になった。</p> <p>島田市内の医師は高齢化している。その医師の子も医師の場合が多いが、なかなか帰ってきて開業してくれない。それぞれが専門医として大きな病院へ務めている状況が多い。</p> <p>国民健康保険が厳しい状況になってきているのは、非常に高い薬が出てきているから。例えば、C型肝炎の薬は一錠8万円で、3ヶ月服用しなければならず、3ヶ月で720万円掛かる。でも、国民健康保険があるから、個人負担は月2万円しかかからない。オプジーボという肺がんの薬が新薬の認証を受けたが、1年間薬を飲む必要があり、1年間で3,500万円の薬代が掛かる。これも、個人負担は月2万円しかかからない。お金のある人と無い人で、受けられる医療に差があってはならない。しかし、このような薬を使うことにより、国民健康保険の医療費の負担は大きくなっていくのが現状である。</p> <p>処方箋については、高いと思われるかも知れないが、個人医院の先生方は経営に四苦八苦している。</p> <p>定期的に医師会長に会う機会があるので、処方箋の件については、このような意見があったことを伝える。</p>
2-1	<p>■島田市民病院の医師について</p> <p>（島田市民病院の）医師がすぐ変わってしまうのは何故か。形成外科にかかっているが、1年に3回も医師が変わった。その都度、説明するのが大変である。</p>	<p>●医師は、本人が残ることを望んでも、大学から戻るようにと言われたら戻らなければならないし、医師としてもっと力をつけるために、浜松医大に研修に行かせている医師もいる。それぞれ、いろいろな事情があって（医師が）変わると思う。</p>
2-2	<p>■山梨（大学）から来た医師に手術をしてもらったが、モルモットのよ</p>	<p>●医師として力をつけるために勉強していると思う。研修医は、主に総合</p>

<p>うに6～7人の研修医にみられて、びっくりした。研修だから仕方が無いと思うが。</p>	<p>診療科というところで、総合的にいろいろなものをみている。</p>
<p>3 ■島田の教育について</p> <p>少子化が進む中で、自分が小学生だった頃、4小は1学年約120人だったが、今は、4年生は2クラスしかない状況である。しかし、小学校の先生は忙しい。教員の数を増やすことは出来ないか。</p> <p>島田市を持続可能、活性化させるためには、島田市民を育てるのが一番だと思うが、その中で、市長さんとして教育現場にどのように携わっているのかということを知りたい。</p>	<p>●市長になる前に、10年間、教育委員をしており、教育委員長もしていた。島田の教育に誇りを持っている。</p> <p>島田の教育は、一人一人の個に焦点をあてた教育ということと、豊かな心を育てるということに力を入れている。派手さはないが、しっかり人間として、根っこのある人になってもらいたいと思っている。</p> <p>幼児教育は、すごく大切であると思っており、もっと言うならば、赤ちゃんの時の親子の愛着がすごく重要だと思っている。赤ちゃんはいっぱい泣いて、その度ごとに、親がどれだけ自分の要求に応えてくれるのか試しており、その中でしっかりと信頼を結んでいくことが、大人になってからも他人を信じる力になるし、自分は努力すれば頑張れるという力になれるし、友達を信じる力になるし、人と一緒にやっていたりできる力になる。幼児教育も大事だし、学校教育も同じだと思っている。</p> <p>子どもは、島田の宝だと思っているので、教育環境については、だいぶ考えるところがある。今年、学校のあり方検討会をやっていただいております。9月には答申が出ると思う。これは、教育環境のあり方、規模や教育現場のあり方などを提言していただくもの。これを、具現化できるように、具体的に組み立てていく協議会のようなものをつくっていきたいと思う。</p> <p>静岡県は35人学級を行っているが、県が人と予算を付けてくれないので、35人学級が実現しても、今までは、担任ではない級外の先生が必ずいて、困っている教室をみたり、研修に行っている先生の代わりになったりと、余裕があった。ところが、今は、授業時間中の職員室は空であり、研修に行くことさえも、はばかりされる。困っている子どもがいても、そこにつくことが出来ない。そうすると、35人学級を行うのが良いのか、40人学級にして、級外の先生を何人かつけたほうが良いのかというような現実的な課題もある。</p>

		<p>島田は、約70人ほど、市単独で先生を配置している。複式の学級へも、補助の先生を入れている。しかし、補助では授業が出来ないので、正規の先生がそれぞれの学年にいないといけないし、それが理想だと思う。</p> <p>地域にとって、学校は拠点であり、その拠点がなくなったら嫌ではないか。例えば、昔、笹間地区に小学校も中学校もあったが、今はどちらもない。小中学校を廃止するときに、やっぱり笹間地区からは大きな反対があり、議論されたが、最後の決め手になったのは、反対されていた方たちのお子さんたちがそこ（笹間地区）に住んでいない中で、地域拠点が欲しいということだけのために反対は出来ないということで、一気に統合が進んだという話を聞いている。小学校の跡地は交流センターになっている。</p> <p>何らかの形で、次に学校をどのように使うかということを考えていかなければならないが、学校は、教育現場としてだけではなく、地域の拠点としても大きな力を持っているので、そのこともあわせて考えていかなければならない問題であると思う。</p> <p>今は、一生懸命努力しても、学校の先生が減ってしまう仕組みになっている。このことについては、県や文科省へも話をしているが、質の高い教育をしていくためには、教員の数はすごく大事なことで、これからもお願いをしていきたい。</p>
4	<p>■一方通行の指定について</p> <p>警察に聞いたが、一方通行などの指定は行政（市）が行うと聞いた。大津谷川の交通量が非常に多いが、一方通行になっていない。大津谷川の万代橋から市民病院の通りの道（高橋）まで、川下に向かって右岸の土手について、市民病院へ行く途中の道、川上に向かっての一方通行にしていだけないか。一つ問題なのは、万代橋から市民病院の通り（高橋）までの間に1件家があり、一方通行にすると、そのお宅へは迷惑になるかもしれない。</p>	<p>●実は警察での協議会の中で、同じような意見が出た。署長のいるところで話題になった。特に大津谷川の兩岸の土手は、生活道路なのに、市民病院への抜け道として利用する人が多く、散歩もゆっくり出来ないというようなことだった。</p> <p>一方通行を決めるのは市ではない。市は、標識一つ、信号一つ付けるのもままならず、全部警察にお願いしている。</p>

■松葉町内の山側の通り及び大津谷川沿いの河原のススキについて

はなみずき通りから釣具屋さんのところを左折して、山側の通りを行き、雇用促進住宅の手前の橋から川沿いをずっと行って市民病院の方へ行くというのが、通勤と通院の方のルートになっている。

山側の道路が狭い。道路にはみ出した草木が交通の妨げになるので、町内で刈っている。6月に町内一斉の草刈を実施した。歩道もなく、民家のすぐそばを通っている道路であり、交通量が多いので、今のところ事故もないが、今後、対策が必要だと思っている。

大津谷川の河原のところに、ススキがかなりあって、5～6年くらい前には、県の事業だと思うが、重機で刈っていただいていた。その後は、刈っていただくことが無くなったので、市へ要望書を提出させていただき、県の土木事務所にまわしていただき、2年越しで、洪水と災害の防止も含めて、整備してくれた。市の担当課長へ、「陳情は毎年行わないとダメか」と聞いたら、「是非お願いしたい。」ということだった。こちらとしては、予測して陳情してもすぐにやっていただけないというのが現実である。実際、数十年前に洪水の災害も経験している場所なので、市の危機管理課も含めて、災害防止の観点も留意して、県へ定期的に事業を実施していただけるようお願いしたい。

●大津谷川の浚渫は、県の島田土木事務所の所管である。県も、15年位前までは、公共事業費が1年間に165億円以上ついてしたが、最近では45～46億円、7割カットという予算であり、浚渫の予算も本当に無い状況となっている。要望や陳情がずっと繋がってくるところを優先にし、現場を見ながらやっている状況となっている。私も、毎年、1年に何回も川の浚渫をしてほしいという要望活動をしている。継続してお願いしていかなければならない。一級河川の大井川のような国が直轄管理をしているところは、護岸の整備率が95%となっている。しかし、大津谷川、伊太谷川、東光寺谷川など、そこに注ぐ川の浚渫がしっかりされず、内水氾濫という状況になってしまうと困るので、きちっと手入れをしていかなければならない。皆様方をお願いしてお手伝いしていただくこともあるかと思うが、定期的に言っていただきたい。市の担当が見に行き、必要があれば土木事務所に言っていく。

災害については、ここは水が出るとか、ここは土砂崩れがあったとか、地元の方たちが一番良く知っている。市長が避難準備情報を出さないとか、避難指示がまだ出ていないとか、それらを待たずとも、ちゃんと自分で危ないか危なくないかを判断いただき、危ないと思ったらここに逃げてきてほしい。自分の命は自分で守らなければならない。

今、おおり1階の西側に耐震シェルターと防災ベットを展示している。耐震補強工事の補助金を増額し、県内トップクラスになったが、それでも65歳以上で80万円の補助であり、本当は、耐震補強の工事をしていただくのが良いが、耐震補強工事は100万円以上かかってしまう。そうした中で、家の中に3畳くらいの耐震シェルターを造ってもらえば、家が潰れてもシェルターは潰れない。これについては、ほぼ全額、市の補助で造っていただけるという補助制度を、6月補正で1,200万円計上し、7月1日から始めた。もう一つは耐震ベッド。寝ている間とはにかく家がつぶれても人は大丈夫だというもの。(同じく補助制度あり)この件については、危

		機管理課へ御相談いただければ説明させていただきます。
6	<p>■学生のUターン事情について</p> <p>市外へ出ている学生のUターン事情はどのようになっているか。</p>	<p>●若い人たちが戻ってくるためには、働く場所と住む場所が問題。志太3市（焼津・藤枝・島田）での合同就職説明会や、東京の有楽町駅前の交通会館8階に、Uターン、Iターンの仕事の紹介、全国都道府県の移住定住や就職を支援するところがある。静岡県のブースがあって、そこで島田の仕事に関する情報をお伝えする事ができる。また、静岡県のブースのすぐ横にハローワークがあり、そこで、県内の就職情報をお知らせする事ができる。また、島田は、「しまだのおしごと」「住んでしまだ」というWEBサイトにて発信しており、最近では、それを見て移住定住したいという申込みをしてくる方たちが大勢いる。また、地域おこし協力隊という形で、よそからこの地域に入って、よそから来た人の目で、どんなに住みやすいところかや、このような良さがある、といったことの発信もあわせて実施している。</p> <p>とにかく、仕事が無ければ戻って来れないので、その仕事を島田だけというのではなくて、広域で探していけるようにしている。また、藤枝と島田が組んで、企業説明会も頻繁に行っている。志太の説明会も行っている。こういったものを活用していただけるとありがたい。</p> <p>雇用の紹介がすぐにできるかわからないが、しましんの向かい側に産業支援センター「おびサポ」があり、中小企業の経営相談や支援をしている。雇用については、一人でも増やしてもらいたいと思っている。</p> <p>島田市は、就職したい学生だけではなくて、親のための説明会も実施しており、大勢の方に来ていただいている。このように、昔に比べると、情報の場が随分増えている。</p>
7-1	<p>■子ども、隣保館について</p> <p>元島田の子どもに、松葉町公園に遊びに来ないかと言ったら、あそこには怖いおじさんがいるから行かないと言った。親がそのようなことを（子どもに）言っている。（その子は）以前は遊びに来ていたが、それか</p>	<p>●もう、そういう時代ではなくなっていると思っているし、若い人たちがどのように思っているのかわからないが、少なくとも私くらいの年代はそのようなことは思っていない。</p>

	<p>らは全然遊びに来なくなった。良くないことだと思う。</p>	
7-2	<p>■ここは隣保館になっている。この間、運営委員会を行ったが、利用率が昔に比べて高くなっている。ここは狭い会館だが、いろんな人に使っていただいている。以前はそんなに使われていなかった。この地域外の方たちと交流する目的で、会館まつりを市の援助を受けて開催していたこともあった。こういった問題は、現実的には、根にあるのでしょうかけれども、だんだん薄れていっていることは事実である。人はみんな平等なので、人のことをどうのこうの言うこと自体が間違っていると思う。制度的な問題から言えば、時代の中の、政治、権力の中でそういうものがつくられてきている訳だから、そこに住んでいる人がどうのこうのという問題ではない。口にする人は、そういうところを理解してなくて、ただ人が言っているから真似て言っている人が多いと思う。昔は、就職などに弊害があったことは事実かもしれないが、今は、そのような時代ではなくなっているということは現実である。</p>	<p>●あけぼの会館の利用率が高いということは知っている。今、市民の皆さんは、自分達の活動する場所をすごく探している。趣味の会などがどんどん増えてきて、そのような方たちがここに入ってきて、このあけぼの会館を使っていただくということが増えていくと、皆さんとの交流も深まっていくし、それがおかしな偏見をなくす大きな力になると思う。</p>
8	<p>■就職、就労について</p> <p>今、若い人がなかなか就職できない時代になってきているのは、企業の問題もあるので、そのへんの問題は、地方行政レベルではなかなか難しいのではないかな。国レベルで、働くことに関してどれだけ国で補償するのかということも大事ではないかと思う。現実的には、非正規が増えて、正社員が減って、今の産業が成り立っているというのが現実なので、その辺も見直すのが大事ではないか。</p>	<p>●非正規がこれだけ増えてしまって、旦那さんの働きだけではとても養っていけない、夫婦共稼ぎをしなければならなくなって、それでもなかなか大変という働き方の問題であるとか、あるいは、結婚年齢も、島田の平均は女性が29歳、男性が30歳となっており、もっと早く結婚して子どもを産めることを社会みんなが認めてあげられるようにならないと、やっぱり子どもが増えていかない。子どもの数だけ言うと、1975年からすでに産まれる子どもの数が減ってきている。もう40年も減り続けている。今、急に人口減少、少子化、高齢化と言われているが、ちょっとの努力ですぐに戻るといったことは考えられない。人口が増えていく努力もしながら、減っていくことを前提としたまちづくりや地域づくりをしていかなければならないと思う。</p> <p>島田にある中小企業は、製造業が多い。大学卒業後の就職希望先とミスマッチがある。特に女性で専門教育を受けた人たちが働けるような場所が</p>

		静岡に少ないと思う。それが、静岡県からどんどん出て行っている理由のひとつではないかと思う。
--	--	---

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

